

# やまなし県有林活用

## 温暖化対策プロジェクト

～ やまなし県有林から、地球のためにできること… ～



### やまなし県有林のとりくみ

やまなし県有林は、

FSC<sup>TM</sup>森林管理認証の原則により環境に配慮した管理経営を行っています。

本プロジェクトは、

その一環として、県有林で実施した間伐による二酸化炭素の吸収量について、国の推進するオフセット・クレジット(J-VET)制度に基づき、クレジット化するとともに、そのクレジットの売却による収益を活用し、更に環境の保全や生物多様性の確保に配慮した持続可能な森林経営などを推進していくものです。

山梨県森林環境部

Forestry and Environment Department Yamanashi Prefectural Government

## ● カーボン・オフセットとは？

カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動で避けることができないCO<sub>2</sub>等の温室効果ガスの排出について、どうしても削減できない量の全部または一部を他の場所での排出削減・吸収量でオフセット（埋め合わせ）することを言います。

## ● オフセット・クレジット(J-VER)とは？

環境省のオフセット・クレジット(J-VER)制度に基づいて発行される、国内における自主的な温室効果ガス排出削減・吸収プロジェクトから生じた排出削減・吸収量を指します。信頼性の高いクレジットとして、カーボン・オフセットに用いることができます。

### やまなし県有林で取得するオフセット・クレジット(J-VER)

#### ○ プロジェクトの種類

森林経営活動によるCO<sub>2</sub>吸収量の増大(間伐促進型プロジェクト)

#### ○ 対象森林

2007～2009年度にかけて、山梨県が県有林内で間伐を実施した約2,900haのカラマツ、ヒノキなどの人工林

#### ○ 吸収量

- ・ 対象 : 対象森林における2008～2012年度のCO<sub>2</sub>吸収量
- ・ **クレジット発行量 : 26,168 tCO<sub>2</sub>**

(対象森林においてモニタリング検証済みの2008.4～2010.12の吸収量)

\*: 最終的なクレジット発行量は、認証運営委員会により認められた量となります。

#### ○ クレジットの特徴

- 持続的な森林経営の対象地であることの証明方法として、**はじめて森林認証制度を条件として登録されたオフセット・クレジット(J-VER)**

森林認証による登録  
国内第1号

- クレジット発行(見込み)量は、**これまで発行された中で最大**

- ・ 全発行済み総クレジット量=36,685 tCO<sub>2</sub>  
の約7割分に相当(全35件中最大=5,349 tCO<sub>2</sub>)  
(どちらも2011年1月末現在)

#### ◇ クレジットの取得に必要な第三者機関による確認・審査

オフセット・クレジット(J-VER)制度では、より信頼性の高いクレジットとするため、第三者機関により、プロジェクトに対する妥当性確認、モニタリングに対する検証が義務づけられ、本県のプロジェクトでは、SGSジャパン(株)により行われました。

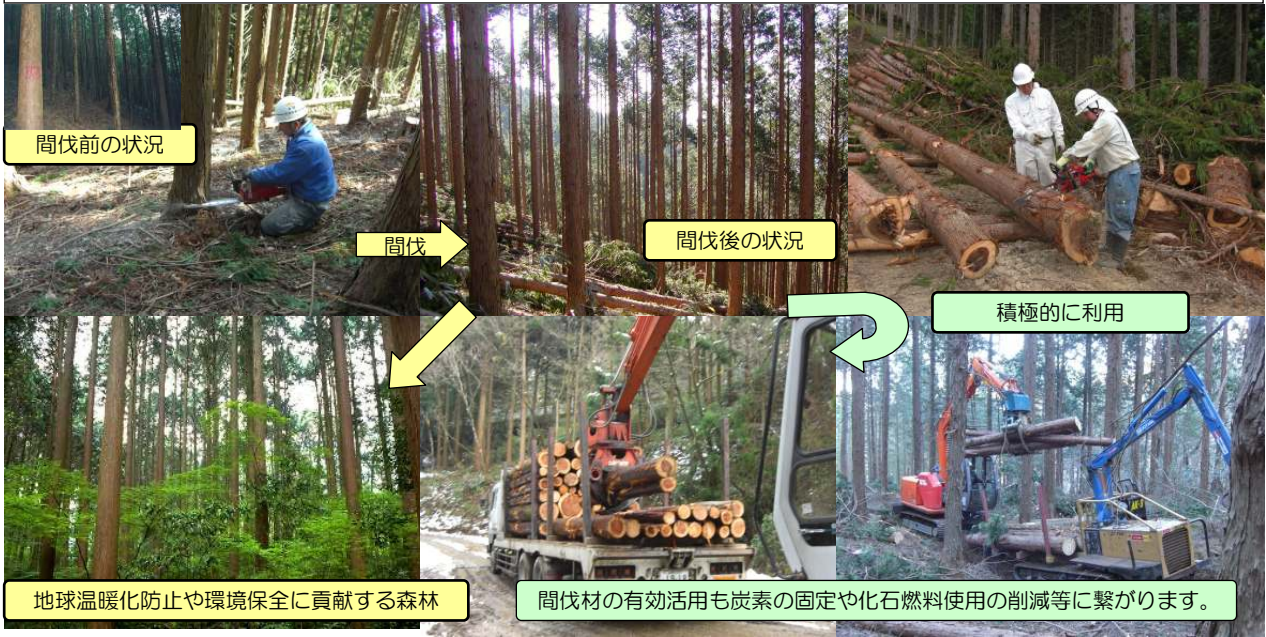


プロジェクトに対する妥当性確認(2010.10.6～8)



モニタリングに対する検証(2011.1.12～14)

地球温暖化防止や環境保全には、間伐など適切な森林整備が必要です。



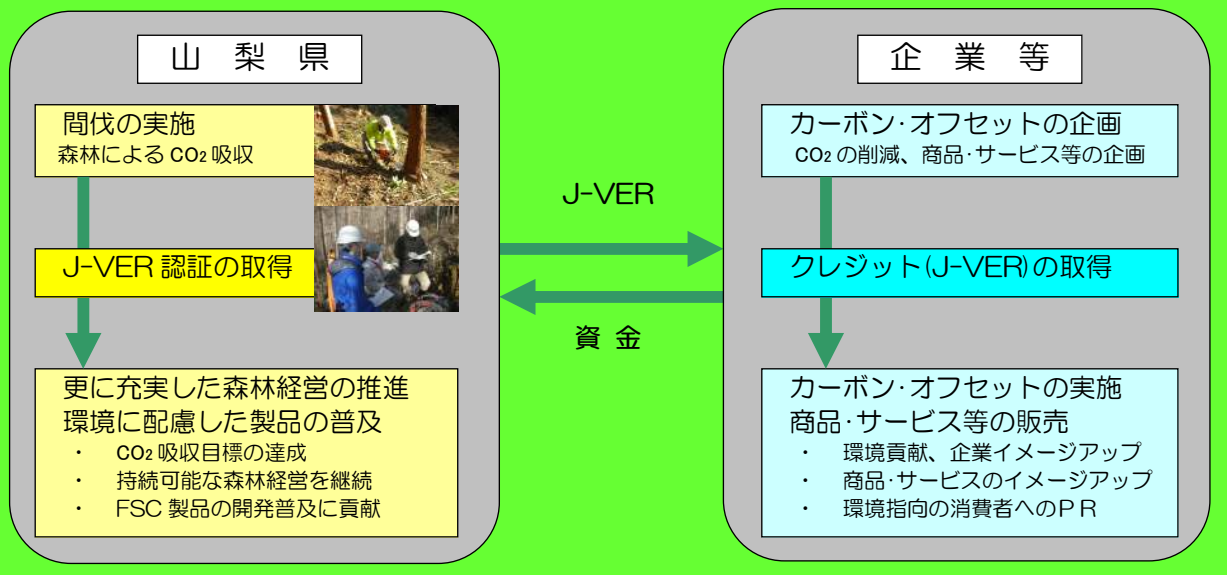
### やまなし県有林活用温暖化対策プロジェクト

#### プロジェクトの目的・活用

- 対象森林の健全性を確保することにより、京都議定書の森林吸収源による温室効果ガス削減目標 3.8%に貢献する二酸化炭素吸収量を増大させる
- プロジェクトにより創出されたクレジットを活用し、更に環境の保全や、生物多様性の確保に配慮した持続可能な森林経営を推進するとともに、FSC 認証木・紙製品等の開発、流通を促進し、消費者に対して環境に配慮した製品の普及を図る

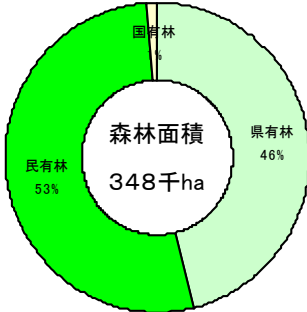
#### 当プロジェクトのカーボン・オフセットの特徴・仕組（メリット）

環境・社会・経済の各分野において国際的な基準に従って適切に管理されていることを FSC 森林管理認証として認められた「やまなし県有林」において、その管理経営の一環として創出されるクレジットは、CO<sub>2</sub> 排出量のオフセットだけでなく、環境保全や生物多様性などのイメージを使うことにより、より効果的なカーボン・オフセットとすることが可能です。

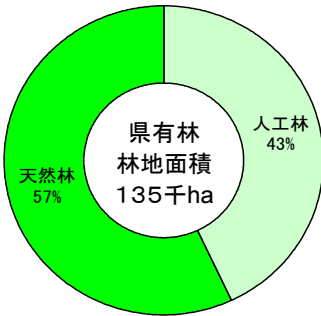


# やまなし県有林

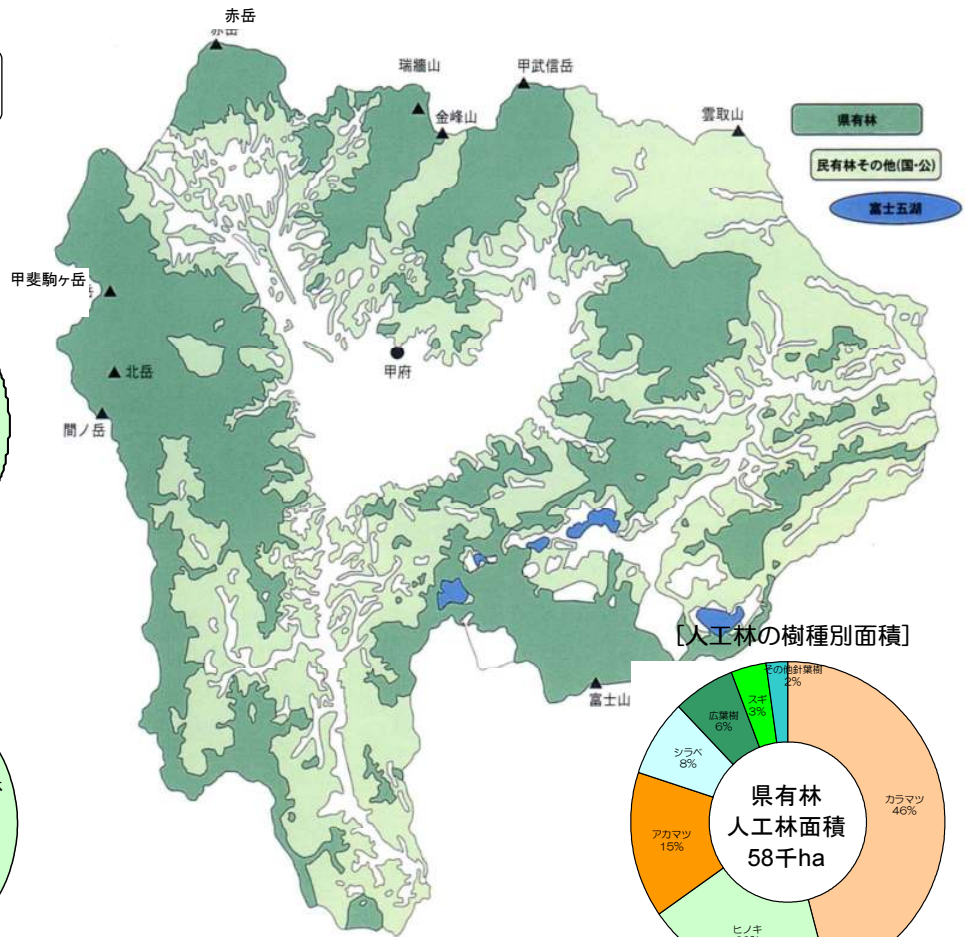
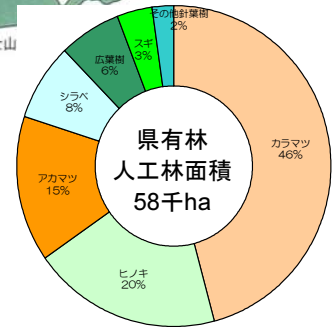
[森林面積]



[天然林・人工林の割合]



[人工林の樹種別面積]



## おんしりん 県有林の基となった恩賜林

山梨県民共有の財産である恩賜林は、明治末期に相次いで発生した大水害の復興に役立てるよう、明治44年に御下賜されました。これが県有林の基となっており、一般的には「恩賜林」の名で呼ばれています。

以来、先人たちのたゆみない努力によって、100年の間守り、育てられてきました。

## 県有林の姿(過去→現在)



昭和25年  
第1回  
全国植樹祭時の  
様子



市街地に隣接しており、ヒノキ林や、アカマツ・広葉樹を中心とした里山林として親しまれている



大正初期  
滋賀の織物問屋・  
塚本定右衛門の  
寄付による造林



スギ、ヒノキ、カラマツの大径材として見事に成林し、「やまなしの森林100選」に選ばれている

## 県有林の状況

山梨県は県土の78%を森林が占める森林県です。県有林は、このうち46%、約15万8千haを有し、実に県土面積(約44万7千ha)の約35%を占めています。

この県有林は、標高200メートルから3,400メートルにわたり、温帯林から寒帯林までの多様な植生を見ることができます。

森林資源の状況は、人工林の割合が43%となっており、カラマツを主にその土地にあった樹種が植栽されています。

## 県有林はFSC™森林管理認証林

県有林は、平成15年4月に、公有林としては全国に先駆けて、国際的な森林認証制度である「FSC森林管理認証」を取得しました。この認証は、県有林が環境、社会、経済の各分野において国際的な基準に従って適切に管理されていることを意味します。

県有林の認証面積は、14万3千ヘクタール(全国1位)、県有林から生産された木材は、FSC認証材として販売しています。



木材市場で販売されるFSC認証材



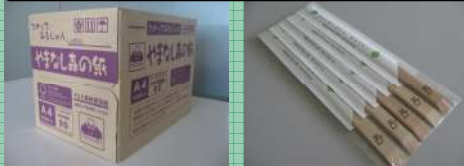
FSC森林管理認証登録証明書

### ■ 認証の概要

- 認証面積 : 143,000ha  
(貸し地等の除地を除く全ての県有林)
- 認証発行日: 平成15年4月10日  
(平成20年3月12日更新)
- ※ 認証面積は全国第1位
- ※ 公有林では全国で初めての認証事業体



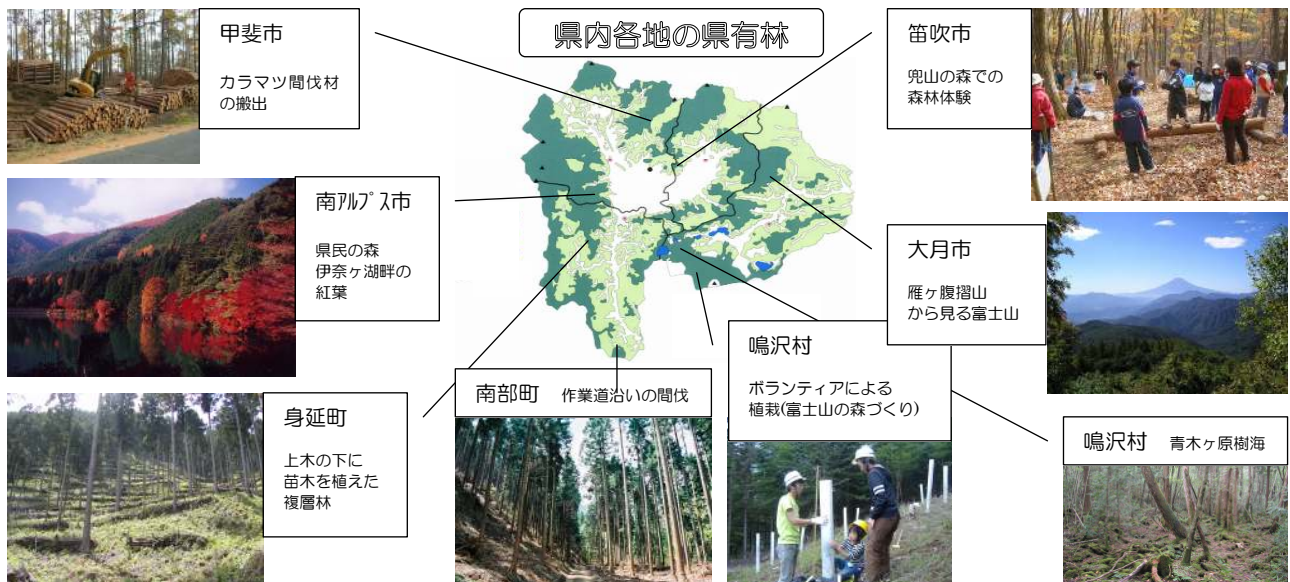
県有林のFSC認証材で作られた認証製品

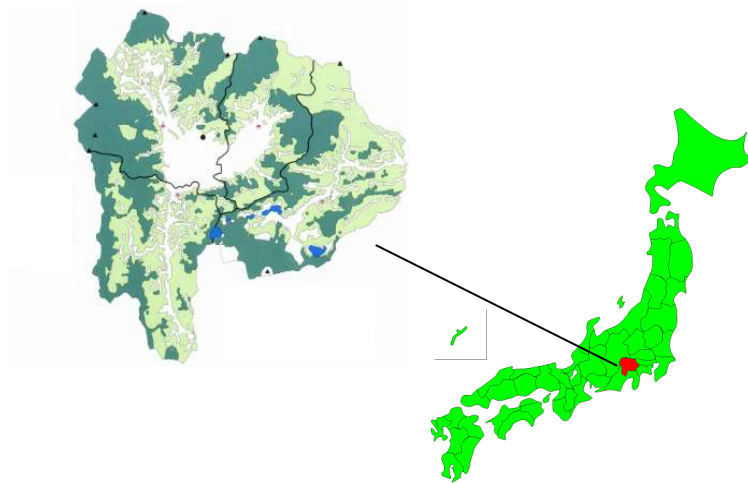


### ※ FSC森林管理認証とは

- FSC: Forest Stewardship Council™ (森林管理協議会)
- 熱帯雨林の減少など、地球規模での環境問題の深刻化を背景に、適正な森林管理への取組みを行う、国際的なNGO(非政府組織)として設立
  - 森林認証制度とは、独立した第三者機関によって作成された基準に照らし、森林の適切な管理を審査・認証する制度
  - 現在全世界的に展開している森林認証制度の一つ
    - ・ 設立: 1993年
    - ・ 本部: ドイツ連邦共和国
    - ・ 構成: 社会、経済、環境に属する会員

FSCライセンスコード FSC™C012256





#### ■ やまなし県有林

- 森林面積 158,000ha
    - ・ 日本の国土面積(37,289 千 ha)の 0.4%
    - ・ 日本の森林面積(25,097 千 ha)の 0.6%
    - ・ 都道府県有林森林面積(1,188 千 ha)の 13.3%(シェア：北海道に次ぐ2位)
    - ・ 県土面積(447 千 ha)に占める県有林の割合 35%(全国 1 位)
  - FSC<sup>TM</sup>認証林面積 143,000ha
    - ・ 全国の認証林面積の内最大
    - ・ 公有林では全国で初めての認証事業体
  - カーボン・オフセット(J-VER)制度による「やまなし県有林活用温暖化対策プロジェクト」
    - ・ 森林認証制度を条件として登録された全国で初めてのプロジェクト
    - ・ クレジット発行量：26,168 tCO<sub>2</sub>(発行済みクレジット量との比較で最大)
- \* 最終的なクレジット発行量は、認証運営委員会により認められた量となります。  
\* 2011 年1月末現在の認証発行量と比較したものです。

山 梨 県 森 林 環 境 部 県 有 林 課

山梨県甲府市丸の内一丁目6番1号

電話：055-223-1654 FAX：055-223-1679

ホームページ：http://www.pref.yamanashi.jp/kenyurin/index.html